

# 宮城県の高校教育の現状について

(県立高等学校将来構想審議会資料)

平成29年7月  
宮城県教育庁教育企画室

# 目 次

高校教育を巡る現状	1
<b>1 本県における高校教育改革</b>	<b>2</b>
(1) 宮城県の高校生の生徒数及び全日制高校（公立・私立）の推移 （昭和23年度～平成43年度）	2
(2) 県立高校将来構想及び新県立高校将来構想の推進状況	3
<b>2 本県における高校の設置状況</b>	<b>4</b>
(1) 公立高校の状況（地区別・学級数別・課程別）	4
(2) 公立高校の設置状況（配置図）	5
(3) 高校及び学科の新設・拡充の取組	10
(4) 入学者定員	11
<b>3 中学校卒業生数の推移・将来予測</b>	<b>12</b>
<b>4 本県高校生の進路の状況</b>	<b>16</b>
(1) 全日制・定時制・通信制別の卒業後の進路	16
(2) 大学等現役進学率及び大学等現役進学達成率の推移	18
(3) 高校卒業者の就職状況	19
<b>5 本県高校生の不登校・中途退学の状況</b>	<b>23</b>
(1) 不登校の状況	23
(2) 中途退学の状況	24
<b>6 本県公立高校のICT教育環境の状況</b>	<b>25</b>
(1) 学校におけるICT環境の整備状況の推移	25
(2) 教員のICT活用指導力の推移	26
(参考) 児童生徒のスマートフォン等の所持及び使用状況	27

# 高校教育を巡る現状

近年、わが県でも少子・高齢化、高度情報化、グローバル化などが急速に進む中で、環境問題、経済の活力の維持、地域間の格差の広がり、世代をまたがる社会的・経済的格差の固定化への懸念、社会における安全・安心の確保などの様々な課題が生じている。また、東日本大震災の発生は、これらの状況を一層顕在化・加速化させた。

こうした環境変化に的確に対応するため、全ての人に等しく学習の機会が開かれ、生涯を通じ、一人一人が自己を磨き、高めることのできる社会を築くことが重要である。

そのために、自由で、知的かつ志の高い、持続可能で豊かな社会を創造し、東日本大震災からの復興や国際社会に貢献できる高校教育の在り方について整理検討することが必要である。

## <高校を取り巻く環境>

- 東日本大震災からの復興
- 人口減少社会の到来と地方創生の推進
- グローバル化の進展
- 子供の貧困率の悪化
- ICT(情報通信技術)の進展
- 家庭環境や地域社会の変化
- 文化芸術・スポーツへの関心の高まり
- 高校の小規模校化
- 国の教育改革の動向
- 不登校生徒や中途退学者の増加
- 雇用情勢の動向

## <魅力ある高校づくりの取組>

- 特色ある学科の設置
- 生徒の多様な個性や特性に対応した教育の推進
- 開かれた学校づくりの推進
- 優れた才能や個性を有する生徒への対応
- 地域・大学・企業との連携・接続
- 「主体的・対話的で深い学び」の推進
- 地域の復興を支える人材の育成
- 「ICT」を活用した教育の推進
- グローバル人材の育成

## — 県立高校の今後の在り方について —

- 学習指導要領改訂等の社会の変化に対応した在り方
- 生徒の多様化に対応した学校・学科構成や支援の在り方  
(定時制や通信制教育の在り方を含む)
- 生徒数減少に対応した学校配置の在り方 など